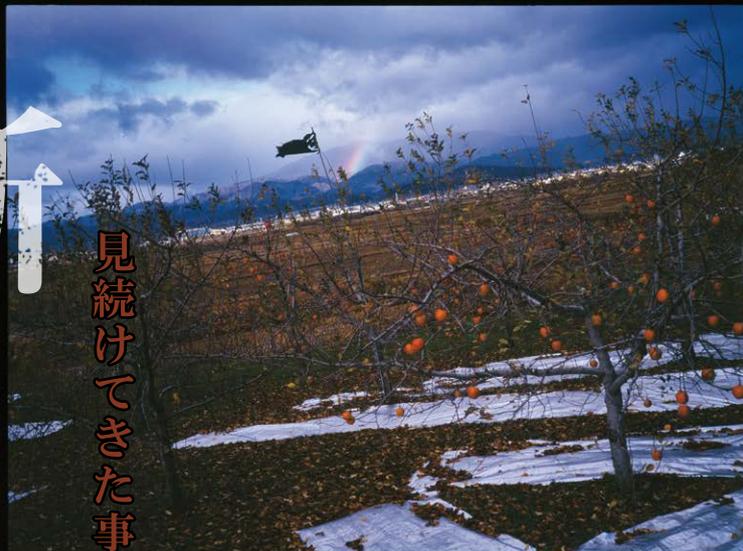


断

見続けてきた事



片



門脇徹 写真展

1997 ~ 2022

再



見

見えてきたもの



【会期】

2022

7.29(金)

~ 9.6(火)

【会場】

最上川美術館 企画展示室

【ギャラリートーク】

7月30日(土) 午後1時30分~

開館時間

午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日

水曜日(8/3, 8/10, 8/17, 8/24, 8/31)

入館料

大人 300円 高校生以下無料

団体(8名以上) 250円

障がい者手帳をお持ちの方 150円



最上川美術館
真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1

TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152

E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp

断片再見

2022.7.29(金)

～ 9.6(火)

見続けてきた事
見えてきたもの

門脇徹 写真展

1997～2022

水無口

「トオル、温泉の田はみなくちでよ、農学校の帰りに遠回りして水が枯れていないか見廻ってきてけろと言われたもんだ」
高齢となった父との他愛も無い会話から、基盤整備前の無為なカタチの多かった田んぼの数々が記憶の片隅に引掛かってきた。命脈ともいえる水源を上流からの順番待ちに依存せざるを得ない、それすら待たず自らを潤す術のない水無口の田、そんな田んぼでも作付面積が絶対であった時世に無理をして買い求めたものだという。

そして今、登記上は田であっても実際は原野や雑木林と化してしまった風景が一面にひろがる。

先代、先々代の辛苦の代償は境界もおぼつかない荒地へ変わってしまった。未来を託されたであろう血族はその繋がりすら、今となっては否定的としかとれない有様である。

映像化するという事は、見い得るありのままを結果的に、取捨選択してしまっているわけだが、実はなるべく多くのありのままを写し込みたい。

それらと対峙し写真機を据え付けて、絞り、露光時間、焦点距離の条件を決めよう。これは思惟もしくは感覚を具現化するといった手続きであり、その所作が雑多で乱雑、混沌とした映像群を定着させていくのだ。

広がるありのままに光を当て彫刻の様に削り出すのは、私なりの作業である。これは情報過多とも云えるムラの記録の、写り込んでしまった“もうひとつの現実”を凝視し続けることに他ならない。



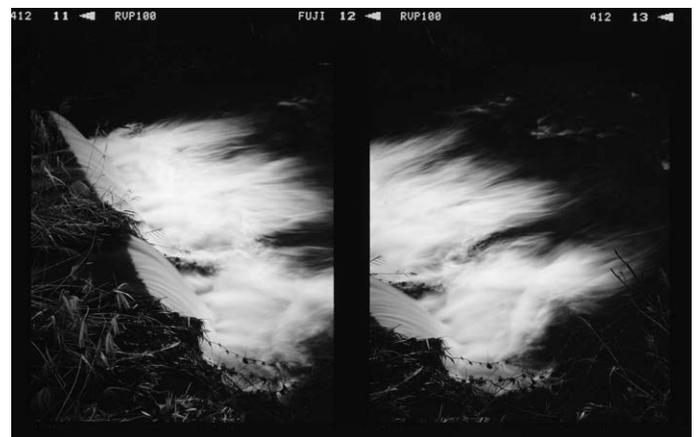
《春を待つ》(組) 1994年 上山城写真展



《葉たばこパーレー種》 1995年「ムラの断片景」(組) ドイフォトプラザ 渋谷



《ムラの累景》 1996年 アサカサ 1997年3月号 ハートランド 掲載



《水無口》 2021年(連作) ※原画は全てカラープリント

門脇 徹 (かどわき とおる)

【略 歴】

- 1964年 山形県東根市出身
- 1986年 東海大学文学部広報学科卒業
- 1993年 山形県上市市上山城写真展(内藤正敏氏審査)
最優秀賞 以降2001年迄 最優秀賞受賞 3回
- 1995年 写真展「ムラの断片景」 ドイフォトプラザ渋谷
- 1996年 《ムラの断片景》にて第2回酒田市土門拳文化賞受賞
同写真展 新宿ニコンサロン
- 1998年 グループ展「計測不能の四人展」
ドイフォトプラザ渋谷
- 2006年 東北発見!「めくるめく東北」写真展 出品
東北芸術工科大学
- 2017年 酒田市土門拳文化賞 受賞者の見た「酒田」写真展
《酒田周縁》出品 酒田市街なかキャンパス
- 2019年 酒田市土門拳文化賞25周年記念写真展
-歴代受賞者による近作展- 酒田市美術館

【作品収蔵】

酒田市 土門拳記念館
上市市 上山城
北杜市 清里フォトアートミュージアム

【後 援】

公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館
酒田市土門拳文化賞友の会



〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1
TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152
E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp

- ・発熱や咳など、風邪症状のみられる方は、来館をお控えください。
- ・入館時の検温・手指の消毒・来館者情報の記入にご協力ください。
- ・館内ではマスクを着用し、他の方との十分な間隔を保ってご鑑賞ください。
- ・館内が過密にならないよう、入場制限させていただく場合がございます。
- ・15名以上でお越しの方は事前にご連絡ください。